

## 第1回松本市基幹博物館施設構想策定委員会 会議要旨

日 時：平成28年9月1日（木）午後1時30分～午後5時30分

場 所：松本市立博物館2階講堂

出席委員：赤羽勝委員、大宮康彦委員、金山喜昭委員、菊池健策委員、倉澤聡委員、香山壽夫委員、笹本正治委員、武者忠彦委員（50音順）  
（欠席委員：南雲多栄子委員、益山代利子委員）

### 1 次第

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 委員紹介
- (4) 松本市基幹博物館施設構想策定委員会の運営について
  - ア 委員会について
  - イ 委員長の選出（委員長代理の指名）
- (5) 議題等
  - ア 松本市立博物館の概況及び基幹博物館整備事業の取組みについて
  - イ 松本城三の丸地区整備基本方針について（松本市都市政策課）
  - ウ 松本市基幹博物館施設構想の構成・項目（案）について
  - エ テーマ1 収蔵 討議（館内収蔵庫見学含む）
  - オ その他
- (6) 閉会
  - ※ 閉会后、建設予定地を見学

### 2 会議事項（要旨）

- (1) 委員長に笹本正治委員が選出され、委員長職務代理に金山喜昭委員が指名された。
- (2) 議題等
  - ア 基本計画の理念や基幹博物館の方向性について
    - ・施設構想は、何をベースに考えるのか。ゼロから考えるのか。（委員）  
→事務局回答  
基本計画をベースに進めていただきたい。
    - ・全国に類を見ない古さ、メリットを生かして博物館整備を進めたい。（委員）

- ・まちなかの活性化を考えている中、中心市街地に博物館が来ることになった。特徴ある博物館にしていきたい。(委員)
- ・経済面でも、博物館を利用しながら振興できないか考えたい。(委員)
- ・松本市の歩みなどをリアルに、簡単に学べればと思う。(委員)
- ・市立博物館は市民のものである。したがって、城下町のことだけを扱うのではいけない。(委員)
- ・「ひとづくり」「まちづくり」は、わかりやすく言えば地元に戻ってきたいと思えること、地元に戻ってきてもらえるようにすることではないか。(委員)
- ・歴史を形として保ち、見に行く確認できる場所が人間には必要、それが博物館。何かのタイミングで何かを思う時にはコアがある。博物館にもそれが担えるはず。(委員)
- ・外から来る人が魅力を感じる街とは、そこに住む人が誇りを持っている。(委員)
- ・地域に対する自信、それを与えるだけの建築、展示が必要。(委員)
- ・ひとづくり・まちづくりでどういう地域像をつくるか、地域の誇り・アイデンティティ・場所の記憶が、隅々まで地域共通になっているのか。中心市街地と奈川・安曇では違うはず。そう考えると、基幹博物館の想定は狭くないか。(委員)

#### イ 分館・合併5地区保管場所について

- ・本館と分館の役割分担を明確にすべき。合併地区のあり方まで含めてここで考えるのか。(委員)
  - 事務局回答
    - この委員会は、基幹博物館の整備についてお願いしたい。
- ・合併地区のあり方についても、早急に・並行して考えておく必要がある。(委員)

#### ウ 収蔵関係

- ・収蔵庫の合計が1,600㎡程度になるが、すべての資料を入れたら余裕があるのか、足りるのか。(委員)
  - 事務局回答
    - 基幹博物館に持ち込む資料については選別する予定。また、合併5地区で木造施設に保存している資料については、基本的には移動させたい。
- ・諸室の区分はされているが、資料の材質で見た場合に、諸室の区分は適切なのか。(委員)
- ・収蔵庫のランニングコストの削減を考えるべき。空調設備が一時的に停止になっても回さずに温湿度管理がある程度可能なものがある。(委員)
- ・地震の備えもすべき。九州国立博物館でも免震を取り入れている。(委員)
- ・栃木県では、収蔵庫が不足して困っている。これは全国共通の問題。(委員)
- ・イギリスでは、館内に収まらない場合、郊外の施設をコレクションセンターとして公開している。コレクションセンターの考え方は、リスク回避の面でも有効ではないか。(委員)
- ・台帳上の項目を本館と各合併地区で合わせることも、手間はかかるが(基幹博物館への移転に絡め)織り込んで対応すること。(委員)

- ・分館も考えた収蔵・展示を考えたい。また、建設予定地周辺には牛伏寺断層の派生もあるはず。この点はかなり検討してほしい。(委員)
- ・収蔵庫に係る金額も出してほしい。(委員)

エ その他

- ・アーカイブは市場原理と分けるべきことを改めて感じた。(委員)
- ・基本計画中の「松本らしさ」の中に合併5地区の特質が見えていないのではないか。(委員)
- ・新しい博物館での松本城の取扱いをどの程度にするのか。それによって、博物館が市民向けなのか観光客向けなのかが見えると思う。また、松本城では新しい博物館をどのように考えるのか。(委員)

オ 委員長集約

- ・今回の議論は、委員間の基幹博物館の考え方をすり合わせる第一歩になったのではないか。
- ・周辺の館のあり方は、基幹博物館の整備に関わる。館の役割分担を考えないと収蔵の考えは見えてこない。
- ・収蔵庫は、災害に備えるやり方は一番安全。単に面積だけでなく、中の部屋の造り方はどうするか、考えるべき。
- ・基幹博物館とは市民・地域・ひとづくりにとってどうあるのか、松本市を出た人がいかに帰ってきたくなるようにするかが大切。
- ・松本学にも立ち返り、その拠点となることをどう考えるか、これから行きつ戻りつしながら考えていきたい。
- ・次回は今日の議論を前提に論議したい。